

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が実施した、平成29年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

## 1 芦屋市全体の結果について

今年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学の2教科で実施されました。結果は、小中学校ともに今年度も全ての教科で全国平均を上回り、市教育委員会では、「評価できる結果」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して評価できる点が多いものの、いくつか課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組めます。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数 (人)	受検者数 (人)
小学校6年生	793	768
中学校3年生	545	518
合計	1338	1286

(3) 調査実施日 平成29年4月18日 (火)

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査 (国語, 算数・数学,)

[国語 A, 算数・数学 A] (主として知識)	[国語 B, 算数・数学 B] (主として活用)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

#### ② 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査

### 3 調査結果の公表について

#### (1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

#### (2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

### 4 本市の各教科の調査結果の概要

#### (1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語		算数・数学	
			A	B	A	B
小学 6 年生	全国	平均正答率	74.9	57.6	78.8	46.2
		平均正答率	80.0	65.0	85.0	56.0
	芦屋市	全国比較	107	113	108	121
		評価	良好	良好	良好	極めて良好
中学 3 年生	全国	平均正答率	77.8	72.7	65.2	48.7
		平均正答率	82.0	75.0	70.0	53.0
	芦屋市	全国比較	105	103	107	109
		評価	良好	おおむね良好	良好	良好

※全国比較は全国平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

#### (2) 各教科の領域別の概況

国語、算数・数学の領域別（知識・活用）の状況については、本市の小中学生ともに基礎的・基本的な知識・技能については、すべて全国正答率を上回っており、評価できる結果となっています。さらに、活用を問う問題Bでは小学校の算数は、全国と比較して高得点の児童が多く、昨年度に引き続き、「極めて良好」です。しかし、中学校の数学では、昨年の「極めて良好」から「良好」となっているが、正答率は、昨年とほぼ変わっておらず、全国正答率が上昇したことによって、比較値が低くなったと考えられる。しかしながら、問題Bの正答率は問題Aにくらべて低く、小中学校ともに記述式問題に課題が見られました。

今後、国語では、複数の条件に合わせて文章を書く活動や自分の考えを具体的に表現する機会を増やしていくこと。算数・数学では、文章や写真、図や表を読み取ることや数学的な表現を用いて説明するような活動に、一層取り組む必要があります。

## 【小学校 国語】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
国語A	2二	● 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。	41.3%	41.5%
	6	○ 【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する。	80.6%	71.1%
国語B	1一	○ スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する。	85.7%	77.2%
	3二	● 「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する。	40.4%	28.0%
	3三	● 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く。	52.5%	43.7%

- 手紙の基本的な構成を理解していない状況が見られる。
- 古文における言葉の響きやリズムを音読により、感覚的に味わい、内容も理解できている。
- 動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いが選択できている。
- 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることができていない状況である。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題があり、無解答率も高かった。この問題に代表されるように記述式の解答が苦手でもある。

## 【中学校 国語】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
国語A	5一	○ 〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する。	88.8%	79.8%
	9五	● 話し合いの記録として適切な言葉を考える。	35.5%	35.8%
国語B	1三	● 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。	45.6%	41.4%
	3二	○ 太宰治と他の作家との関係を書き直したものとして適切なものを選択する。	84.6%	78.7%

- 文章の構成を工夫してわかりやすく書くことは、全国よりも高い割合できている。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解する設問では、問題全体の中で正答率が低い。また、無回答率が高く、課題がある。
- 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く設問では、正答率は低く、課題である。
- 目的に応じて必要な情報を読み取る問題は、高い正答率であった。

## 【指導の改善の方向性】

- ア 各自の考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら交流する機会が大切である。
- イ 一つの場面の叙述だけでなく、比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関連付けたりして読むよう指導が必要である。
- ウ 各教科等の学習や読書活動をする中で出会った多様な言葉について考える学習活動が必要である。
- エ 比喩や反復などの表現技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえるように指導する。

## 【小学校 算数】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
算数A	2(3)	○ $6+0.5\times 2$ を計算する。	78.0%	66.6%
	5	○ 示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ。	77.4%	67.0%
	9(2)	● 二次元表の合計欄に入る数を書く。	70.9%	62.8%
算数B	3(1)	○ 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ。	74.6%	67.9%
	5(2)	● 与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く。	32.1%	13.2%

- 加法と乗法の混同した整数と小数の計算することができるかどうかをみる問題では、全国の平均正答率を上回り、高い割合でできている。
- 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しているかどうかをみる問題は、高い割合でできている。
- 資料から、二次元表の合計欄の意味を理解し、資料を的確に分類整理できて、合計欄に入る数を求めること問題が、算数Aで一番正答率が低かった。
- 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断する問題では、全国の平均正答率を上回り、高い割合でできている。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題では、算数Bで正答率が最も低かった。

算数A・Bともに、図形に関する問題の正答率は、全国の正答率に比べ、高い割合でできている。しかし、数学的な考え方をを用いての記述式の問題になると正答率が低くなり、無回答率が高くなる。なぜその解法で解くことができるのかを、数学的な表現を用いて説明する力に課題がある。

## 【中学校 数学】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
数学A	3(4)	○ 連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く。	75.8%	62.2%
	9	● 長方形の縦の長さや面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する。	23.4%	20.6%
	14(1)	● 反復横とびの記録の範囲を求める。	18.2%	28.6%
数学B	1(2)	● 四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する。	16.0%	14.0%
	2(1)	○ 六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める。	84.7%	80.4%
	5(3)	● 「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。	18.1%	17.6%

- 簡単な二元一次方程式を解くことが、高い割合で正答できている。
- 関数の意味を理解しているかを問う問題では、正答率が低く、無回答率も高かった。
- 範囲の意味を理解しているかを問う問題では、正答率が低く、かつ全国の平均正答率を大きく下回っていた。
- 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する問題は、正答率が低く、数学的な見方や考え方ができていない。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることを問う問題では、全国の平均正答率を上回り、高い割合できている。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかを問われた問題では、資料から必要な情報を適切に読み取ることができているものの、記述による説明ができていない。

## 【指導の改善の方向性】

- ア 適切な判断のために、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現する活動場面を数多く設ける。
- イ 範囲とは、資料の最大値と最小値との差であることを確認したうえで、資料の散らばりの程度を捉える学習活動を取り入れていく必要がある。
- ウ 事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明する場面を増やしていく。
- エ 資料の分布の様子と比較から検討、判断することによって、特徴をとらえやすくなることを確認し、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動場面を増やしていく。

## 5 教科の学習に対する子どもの意識の変化

(単位：%)

設 問	教 科	小 学 校			中 学 校		
		H26 本市	H29 本市	H29 全国	H26 本市	H29 本市	H29 全国
勉強が好き (どちらかというが好き)	国語	61.0	61.3	60.5	51.9	57.0	60.5
	算数・数学	67.6	67.2	65.9	61.7	58.0	55.4
勉強は大切 (どちらかという大切に)	国語	90.5	89.4	91.2	85.4	83.9	88.8
	算数・数学	94.1	90.1	92.0	79.6	74.5	81.1
授業はよくわかる (どちらかというわかる)	国語	81.8	81.4	82.2	70.3	71.0	74.9
	算数・数学	83.5	79.9	80.6	80.0	73.2	69.4
授業で学習したことは将来、役に立 つ(どちらかといえば、役に立つ)	国語	86.3	86.8	87.9	76.0	75.0	83.3
	算数・数学	89.0	88.9	89.1	65.6	61.3	72.4

今回の中学校3年生は、小学校6年生だった平成26年度調査で2教科を受けていることから、平成26年度の小学校の回答と平成29年度の中学校との回答を比較したところ「勉強が好き」と答えた生徒の割合は、国語が-4.0%、算数・数学が-9.6%となっており、特に「算数・数学好き」の子どもが減る割合が大きくなっています。また、「授業内容がよくわかる」と答えた生徒を比較すると国語が-10.8%、算数・数学が-10.3%となり、国語は、全国の傾向に比べるとその割合が大きく低下しており、また、数学は、全国とほぼ同じ割合になっている。全国でも国語、算数・数学両方、低下傾向がみられました。

今回の結果は、小学校に比べ中学校では、理論的な授業が増え内容が難しくなることも要因の一つとして考えられます。

尚、本年度の中学校の意識調査で、数学について「勉強が好き」「授業はよくわかる」と答えた本市の生徒は、全国平均を上回っています。また、学力調査の結果も全国と比較すると「良好」という結果になっています。

### 【指導の改善の方向性】

- ア 教科に関する調査で良好な結果を残しながらも、「勉強が好き」、「勉強が大切」、「学習したことは将来、社会で役立つ」と感じる割合が、小学校から中学生へ低下していることから、発達段階に応じた動機づけが各教科の授業で求められる。
- イ 算数・数学については、各学校にチューターが配置されていることもあり、「よくわかる」と答えた児童生徒の割合は高く、特に中学校で顕著となっている。今後も、チューターの有効的な活用により、学習に対する意欲や学力の定着が十分に進まない児童生徒に対する、きめ細かな指導を継続して行う。

## 6 学習や生活に対する意識・実態について

(単位：%)

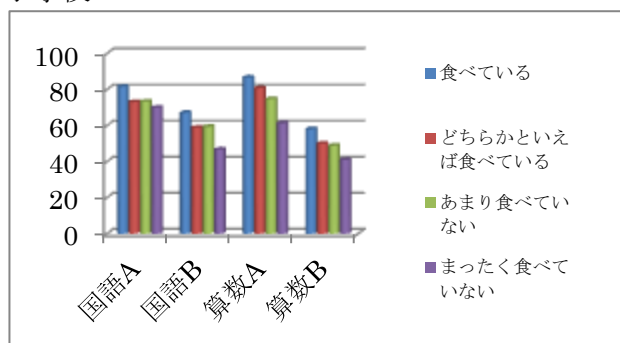
No.	内 容	区分	H26	H29	
			本市	本市	全国
1	学校のきまり(規則)を守っている。	小学校	84.2	88.9	92.6
		中学校	91.5	94.7	95.2
2	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	小学校	83.1	77.1	81.2
		中学校	65.1	71.7	73.3
3	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。	小学校	58.7	53.2	50.6
		中学校	45.3	49.0	44.0
4	ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	小学校	79.3	78.1	73.4
		中学校	75.4	77.5	73.3
5	自分にはよいところがあると思う。	小学校	37.9	38.6	38.6
		中学校	32.1	29.5	28.2
6	将来の夢や目標を持っている。	小学校	70.7	72.2	70.0
		中学校	50.9	51.7	45.3

- ◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている小中学生の割合が、全国と比較して低くなっています。これを課題とし、学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実に取り組むとともに、「芦屋市いじめ防止基本方針」、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組を行っています。今後もさらに充実させる必要があります。
- ◆ 全国と同様、本市の児童生徒も、自尊感情に関する設問で、肯定的なとらえ方が低いと言えます。運動会、合唱、小学校の自然学校、中学校のトライやる・ウィーク等さまざまな行事や体験活動を通して、挑戦し、やりきった達成感を味あわせるとともに、自信を持たせることが大切です。そのためにも、達成したことをほめたり、評価していくことで家庭・地域・学校園が、子どもたちの自主性を尊重しながら、一緒になって子どもたちを育てるという機運を高めていくことが大切です。

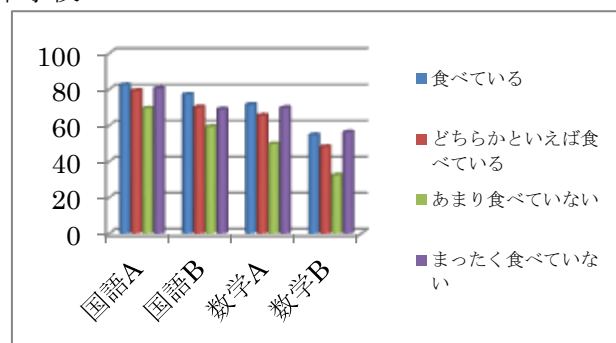
## 7 生活習慣や学習環境と教科に関する調査結果の関係

(1) 「朝食を毎日食べている」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係

小学校



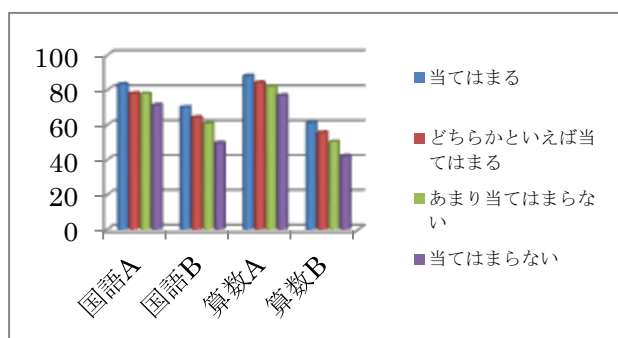
中学校



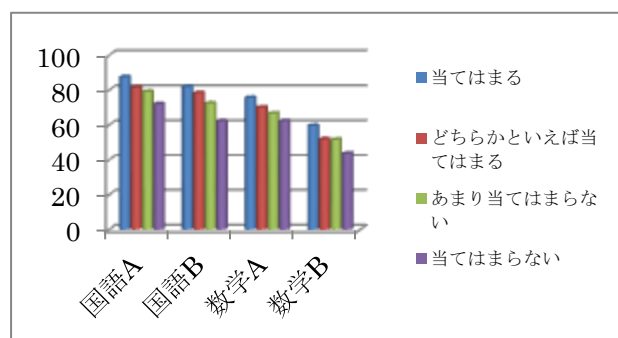
- ◆ 本市の児童生徒の朝食摂取率は小学校が全国平均をわずかに下回っています。全教科で、平均正答率との相関関係が顕著です。しっかり朝食をとることは、規則正しい生活習慣、健康な体づくりにもつながってきますし、学力向上に向けてたいへん効果的であると考えられます。

(2) 「読書が好き」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係

小学校



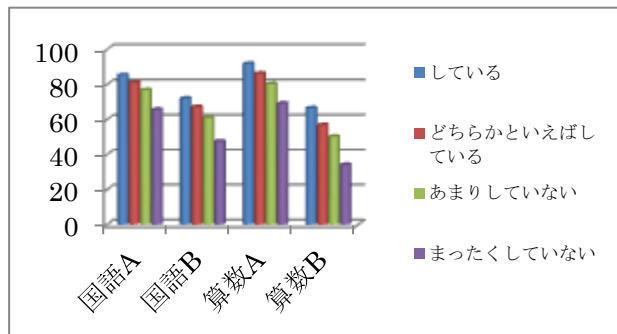
中学校



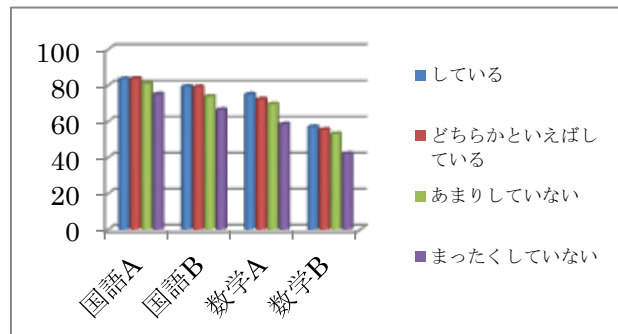
- ◆ 本市において、読書が好きと回答した児童生徒は、小中学校ともに全ての教科にわたって全体の平均正答率を上回っており、特に活用を問うB問題でその差が顕著となっています。

(3) 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係

小学校



中学校



- ◆ 本市の「家で、自分で計画を立てて勉強している（どちらかといえばしている）」と回答した割合は小中学校ともに全国平均を上回っています。また、計画的な学習をしている児童生徒ほど全教科で、正答率が高くなっており、家庭学習の習慣化が、学力向上を図るうえで非常に有効であることがわかります。

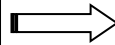


## 8 教育委員会の取組について

教育委員会では、芦屋市教育振興基本計画に基づき、児童生徒の知・徳・体の調和した「人間力」の育成を図る中で、学力向上のために本調査の結果を活用し、次のような取組を進め、学校の教育活動を支援していきます。

### (1) 学習指導・授業研究の充実

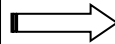
- 学力向上パワーアッププラン、学力向上支援プランの充実
- 複数指導や少人数指導の推進
- チューター（学習指導員）の配置
- 理科推進員の配置（小学校）
- 地域人材や学生ボランティアの活用
- タブレット等、ICT 機器の活用研究の推進
- 小中学校間の授業交流の推進



- 児童生徒が体験を通して学べる学習環境の整備
- 児童生徒一人一人の個性や能力に応じた指導の充実
- 児童生徒の学習意欲や興味・関心を引き出す授業の研究
- 教職員の資質や授業力の向上を目指した研修の充実
- 小中学校間の円滑な接続や系統的な教科指導についての研究の推進

### (2) 生徒指導・進路指導の充実

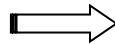
- 基本的な生活習慣の定着を図る指導の充実
- 道徳教育・人権教育の充実
- キャリア教育の充実



- 児童生徒の自己肯定感、規範意識を醸成する教育の推進
- 夢や目標をもって、自らの未来を切り拓く力をはぐくむ進路指導の推進

### (3) 読書活動の推進

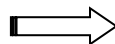
- 読書月間の設定・啓発
- 学校図書館の環境整備・利用啓発
- 読書スタンプラリーの実施
- 「子どもに読ませたい図書リスト 400選」「おはなしノート」「読書ノート」の配布・活用
- 芦屋市読書推進モデル校の指定



- 図書ボランティアや市立図書館と連携した読書活動の推進
- 朝の読書タイムの充実
- 学校図書館の授業での活用促進
- 児童生徒の学校図書館の本の利用冊数の増加

### (4) 家庭への啓発・連携の強化

- 保護者、地域への取組の発信



- 家庭との連携による児童生徒の生活習慣、学習習慣の向上

## 9 家庭・地域での取組について

- ◆ 約束ごとはきちんと守らせて、規則正しい生活が送れるようにしましょう。
- ◆ 学校での出来事や社会で起こっていることについて、親子で話をする機会を増やしましょう。
- ◆ 親子で読書に取り組む時間をとりましょう。
- ◆ 子どものよいところや頑張ったところを積極的に認め、評価しましょう。
- ◆ 子どもが地域の中で活動し、活躍できる機会を増やしましょう。
- ◆ 親子でインターネットや携帯メール等に依存しないような環境を作りましょう。

## 10 児童生徒の生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べている	芦屋市	83.7	83.7
		全国	87.0	82.7
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	芦屋市	34.3	31.0
		全国	38.2	31.1
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている	芦屋市	57.1	54.7
		全国	58.9	56.3
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	芦屋市	78.1	77.5
		全国	73.4	73.3
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している (どちらかといえばしている)	芦屋市	76.9	66.6
		全国	77.4	71.0
6	自分には、よいところがあると思う	芦屋市	38.6	29.5
		全国	38.6	28.2
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である (どちらかといえば得意である)	芦屋市	54.5	52.9
		全国	52.2	50.5
8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる (どちらかといえばできる)	芦屋市	91.8	93.5
		全国	94.3	94.6
9	将来の夢や目標を持っている	芦屋市	72.2	51.7
		全国	70.0	45.3
10	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に活かしている。 (どちらかといえば活かしている。)	芦屋市	79.8	66.9
		全国	82.8	70.9

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
11	普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）	芦屋市	38.3	36.5
		全国	55.7	49.1
12	普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする	芦屋市	39.2	48.0
		全国	55.5	59.0
13	普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）	芦屋市	13.3	42.4
		全国	20.5	50.4
14	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり3時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	芦屋市	37.8	13.8
		全国	11.9	10.1
15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり3時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	芦屋市	39.4	23.6
		全国	12.2	17.8
16	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている	芦屋市	72.4	69.4
		全国	45.8	61.4
17	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日1時間以上、読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	芦屋市	21.0	12.0
		全国	16.8	14.0
18	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く	芦屋市	16.1	8.3
		全国	15.6	8.1
19	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている	芦屋市	53.2	49.0
		全国	50.6	44.0
20	家で、自分で計画を立てて勉強をしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	67.0	51.5
		全国	64.5	51.5
21	家で、学校の宿題をしている	芦屋市	89.7	71.7
		全国	88.0	67.7
22	家で、学校の授業の予習をしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	32.4	30.4
		全国	41.0	31.7

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
23	家で、学校の授業の復習をしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	35.6	51.9
		全国	53.8	50.5
24	学校に行くのは楽しいと思う（どちらかといえば楽しい）	芦屋市	85.6	80.8
		全国	86.3	80.9
25	学校で、友達に会うのは楽しいと思う	芦屋市	85.4	78.5
		全国	83.5	75.5
26	学校で、好きな授業がある	芦屋市	77.2	58.3
		全国	78.4	53.5
27	学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている（どちらかといえばまとめている）	芦屋市	51.5	41.1
		全国	50.3	40.5
28	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	芦屋市	61.5	66.3
		全国	60.8	61.0
29	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	芦屋市	45.5	35.7
		全国	47.3	34.5
30	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	芦屋市	42.8	24.2
		全国	50.5	30.1
31	今住んでいる地域の行事に参加している（どちらかといえば参加している）	芦屋市	45.5	29.3
		全国	62.6	42.1
32	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある（どちらかといえばある）	芦屋市	64.0	58.6
		全国	63.9	59.2
33	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	芦屋市	29.3	27.3
		全国	35.4	49.7
34	新聞をほぼ毎日読んでいる	芦屋市	17.1	8.1
		全国	7.8	5.3
35	テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	芦屋市	50.8	59.5
		全国	54.5	51.8
36	学校のきまり（規則）を守っている（どちらかといえば守っている）	芦屋市	88.9	94.7
		全国	92.6	95.2

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
37	友達との約束を守っている	芦屋市	70.7	64.5
		全国	69.4	69.4
38	人が困っているときは、進んで助けている（どちらかといえば当てはまる）	芦屋市	85.5	82.2
		全国	85.3	84.4
39	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	芦屋市	77.1	71.7
		全国	81.2	73.3
40	人の役に立つ人間になりたいと思う	芦屋市	71.8	64.3
		全国	68.0	66.1
41	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）	芦屋市	63.6	53.1
		全国	69.8	64.3
42	前の学年までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	76.7	68.2
		全国	77.9	74.9
43	前の学年までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	83.9	82.4
		全国	84.7	84.4
44	前の学年までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	84.3	80.4
		全国	84.5	81.8
45	前の学年までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	72.4	69.0
		全国	75.1	71.3
46	前の学年までに受けた授業で、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	76.5	70.0
		全国	78.1	73.5
47	前の学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	64.8	55.1
		全国	64.9	57.9

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
48	前の学年までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	85.7	80.8
		全国	88.2	87.8
49	前の学年までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	69.3	53.9
		全国	76.2	66.1
50	前の学年までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	84.6	70.6
		全国	88.7	80.3
51	前の学年までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	74.7	73.5
		全国	78.5	76.0
52	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	52.5	59.0
		全国	59.5	62.5
53	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	45.8	58.3
		全国	53.7	62.8
54	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	71.6	61.4
		全国	68.2	64.8
55	国語の勉強は好きである（どちらかといえば好きである）	芦屋市	61.3	57.0
		全国	60.5	60.5
56	国語の勉強は大切だと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	89.4	83.9
		全国	91.2	88.8
57	国語の授業の内容はよく分かる（どちらかといえば分かる）	芦屋市	81.4	71.0
		全国	82.2	74.9
58	読書は好きである（どちらかといえば好きである）	芦屋市	74.8	62.0
		全国	74.3	69.9
59	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	86.8	75.0
		全国	87.9	83.3
60	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	64.8	55.4
		全国	68.0	62.7

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
61	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（どちらかといえばしている）	芦屋市	62.4	48.1
		全国	63.4	55.6
62	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（どちらかといえば書いている）	芦屋市	75.9	57.6
		全国	74.8	65.9
63	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題は、すべて最後まで書こうと努力した	芦屋市	82.4	71.9
		全国	77.2	72.3
64	算数、数学の勉強は好きである（どちらかといえば好きである）	芦屋市	67.2	58.0
		全国	65.9	55.4
65	算数、数学の勉強は大切だと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	90.1	74.5
		全国	92.0	81.1
66	算数、数学の授業の内容はよく分かる（どちらかといえば当てはまる）	芦屋市	79.9	73.2
		全国	80.6	69.4
67	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う（どちらかといえば思う） 数学ができるようになりたいと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	74.0	84.5
		全国	75.7	91.2
68	算数、数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えている（どちらかといえば考えている）	芦屋市	81.0	65.1
		全国	81.1	73.5
69	算数、数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている（どちらかといえば考えている）	芦屋市	69.8	36.6
		全国	69.1	45.3
70	算数、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（どちらかといえば役に立つと思う）	芦屋市	88.9	61.3
		全国	89.1	72.4
71	算数、数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている（どちらかといえば考えている）	芦屋市	84.0	62.6
		全国	81.4	71.2
72	算数、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	81.4	63.2
		全国	82.6	72.1
73	算数、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている（どちらかといえば書いている）	芦屋市	84.7	76.9
		全国	86.0	81.3

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
74	今回の算数、数学の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（説明する） 問題では、最後まで解答を書こうと努力した	芦屋市	75.4	54.8
		全国	69.9	55.4
75	調査問題の解答時間は十分だった（国語A）	芦屋市	58.7	69.4
		全国	53.2	64.5
76	調査問題の解答時間は十分だった（国語B）	芦屋市	37.7	57.2
		全国	32.6	50.6
77	調査問題の解答時間は十分だった（算数A、数学A）	芦屋市	61.0	61.6
		全国	55.0	58.8
78	調査問題の解答時間は十分だった（算数B、数学B）	芦屋市	39.9	51.0
		全国	27.7	44.9

## 11 その他

全県、全国の調査結果もそれぞれのホームページでご覧になれます。

○兵庫県教育委員会 義務教育課

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/gakuryokutyousa/gakuryoku.htm>

○国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/index.html>